

西岡家住宅

西岡家は江戸時代に磁器の交易、海運業で大成功を収めました。

一家の主な住居は 1855 年に建設され、完成までに 3 年近くの歳月を要しました。居蔵様式で建てられており、屋根の間に三角形の壁が見える瓦屋根が特徴です。メインエントランスは、建物の前面と背面の両方に配置され、大きな廊下で接続されています。入口が 2 つあるのは、正面の旧長崎街道で到着したお客様をお迎えしながら、奥の川を経由して海運業を営むことができるようにするためでした。

どちらの扉から入っても、家の中には土間の廊下が続いています。回廊に沿った 8 つの部屋は、川の氾濫を考慮して床を高くして作られています。母屋、土蔵、別館からなる広大な敷地には、西岡家の莫大な財産が反映されています。一部の部屋に展示されている武器は、裕福な商人は武器を持つ傾向があった為西岡家が財産を誇示するために保管していたのではないかと考えられています。

1974 年 2 月 5 日に国の重要文化財に指定されました。